

<社会化>とは、人や他の動物、さまざまなものや環境に慣らしていくことをいいます。よく社会化された子猫は、より人に慣れやすく、情緒の安定した猫に成長し、人間社会に適応しやすくなります。一般に猫の「社会化期」は、生後2週から7週までとされ、さまざまなことを受け入れやすい時期とされています。犬に比べて、社会化期が短いのが特徴ですが、この時期を過ぎても、ゆっくりと時間をかければさまざまなことに慣らすことは可能です。飼養期間中の子猫に適切な社会化を行い、飼いやすく譲渡されやすい子猫にしましょう。

## 人に慣らす

### いろいろな人と触れ合う機会を作りましょう



子猫の世話を日常的にしているスタッフだけではなく、男性、女性、作業着のひと、私服の人、獣医師など、さまざまな人と触れ合う機会を作りましょう。事務方の職員や、ボランティアの方に協力してもらうのもいいでしょう。シャイな猫でも、さまざまな人と穏やかに触れ合う機会を多く持つことでより人に慣れ、譲渡されやすくなります。



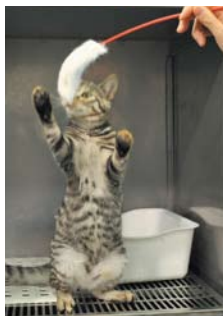
### フードを与えながら触ってみましょう

多少シャイな子猫の場合は、空腹時を狙って、普段よりも少しおいしいフードなどで誘い、食べている間に、少しずつ体に触れていく練習をしましょう。  
※食べながらなる猫の場合はおもちゃで慣らす方法に切り替えましょう。



### おもちゃで遊ばせましょう

シャイな子猫も、動くおもちゃには興味を持つ場合が多いようです。なかなか触らせない子猫の場合は、最初はケージの外からおもちゃで誘って、だんだん人に慣らしていきましょう。夢中になっておもちゃで遊ぶ子猫の様子はかわいらしく、譲渡先でも喜ばれます。なるべく、たくさん、遊んでやりましょう。



### 生活音を聞かせましょう

譲渡後の家庭にありそうな生活音（洗濯機の音、サイレン、音楽、子供の声など）の効果音やラジオを収容部屋施設にかけておくことで、音に対する社会化ができます。過剰に音に反応することがない、安定した子猫は、譲渡後の生活にも早く適応でき、譲渡後のトラブルを防ぐことができます。



## 猫に慣らす

感染症の予防には個別管理が原則ですが、検査でその心配がほぼないと判断された場合や、最初から兄弟で搬入された場合は、同じケージに複数収容し飼養することも多いようです。

飼養期間中、ずっと個別でいるよりも、相性のいい子猫同士が一緒にいることで、精神的にも安定し、複数飼育の家庭への譲渡にも適応しやすい子猫になります。

個別ケージで飼養している場合でも、ときには、他の子猫と一緒にし、子猫同士遊ばせる機会をつくりましょう。ステンレスケージの仕切りを外して広くしたり、3段ケージを使ったりするといいでしょう。

ただし、親以外の成猫との接触は、感染症のリスクや安全面から避けたほうがいいでしょう。



段差のある猫用ケージ

## ❗ 注意

怖がっている子猫を、無理やりつかまえて触るのは、逆効果です。よけい人の手を怖がるようになり、恐怖心から攻撃性を示すようになる場合もあります。時間を見つけては、ケージに近づき、やさしく声をかけるなどの、静かなアプローチから始めて、子猫のほうから近づいてくるのを待ってやりましょう。

岐阜市では、毎年多くの子猫が持ち込まれ、「畜犬管理センター」だけでは収容できない時期に、「一時預かり制度」を設け、子猫の飼育をお願いしています。この制度は、公募ではなく本市の子猫の譲渡事業の主旨を理解・協力していただける方（現在4名登録）に、1匹1日300円の謝礼金（14日間を上限として）をお支払いし、家庭での飼育をお願いするもので、人慣れをさせること、トイレを覚えさせることなどのメリットがあります。一般の譲渡希望の申し込みがあった場合は、猫を保健所に連れてきてもらい、お見合いです。今後は一時預かりをお願いする前の、検便、ワクチン接種（一時預かり宅での感染症などを防ぐ目的）の実施を検討していきたいと考えているそうです。

## 岐阜市 一時預かり

## 事例 ⑪